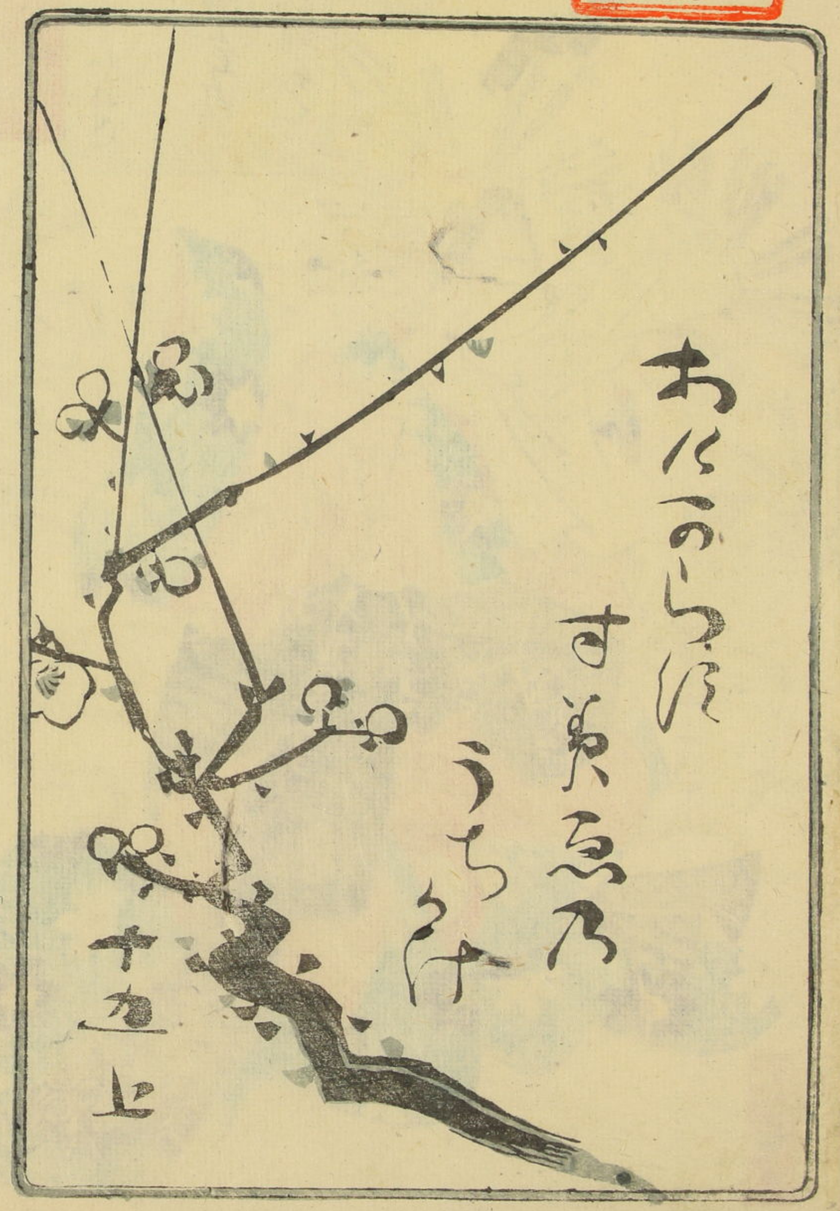
へ 13
3735
29

門へ13
號3735
卷29



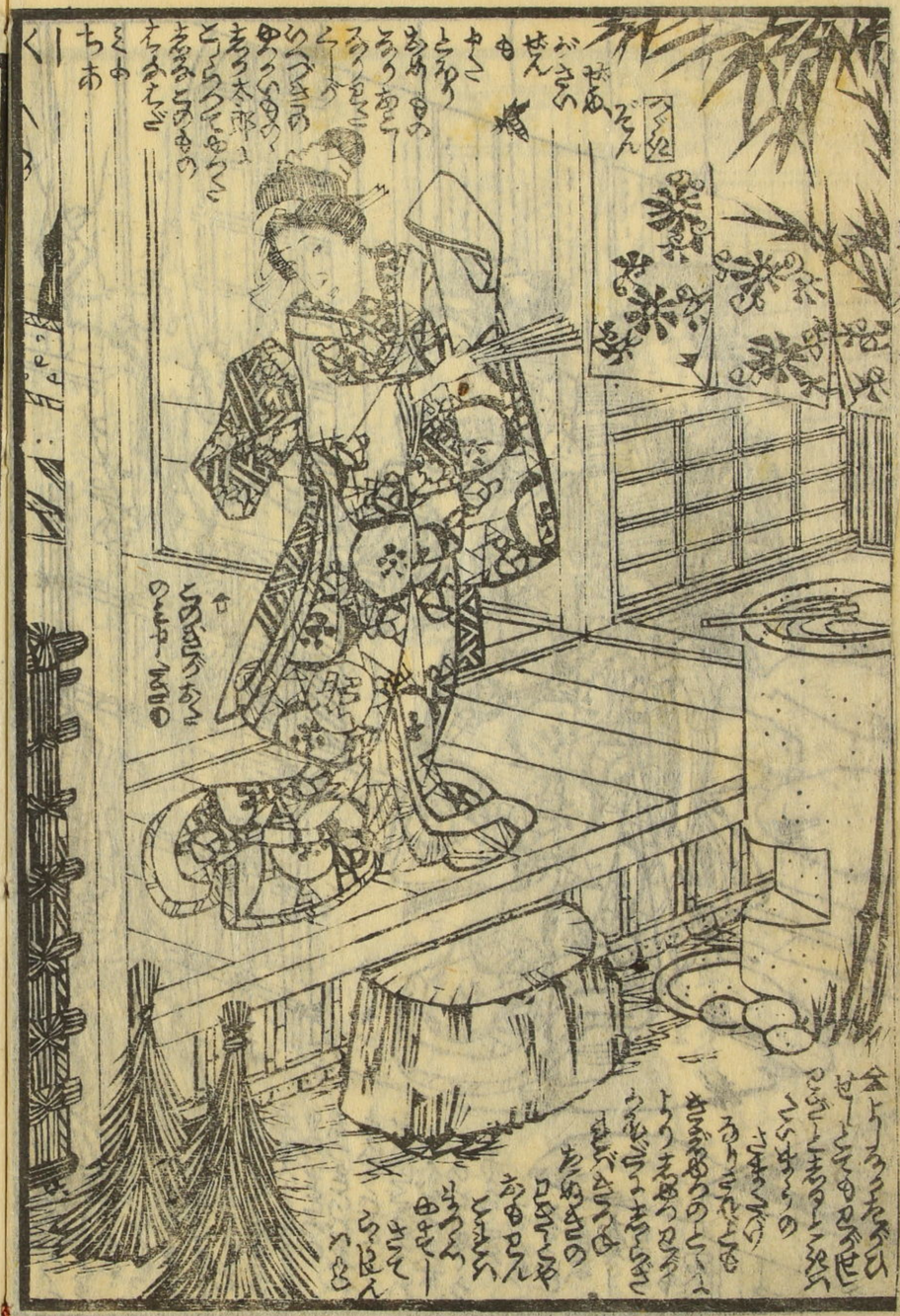
花咲爺談志とゝいふ藝人あるまゝ貧朴なるまゝ情態自然と有此翁の座舗藝よ何でもあい支百申ゝゝゝ口よ任せゝ種ゝ薩塩無根言數ゝ息ゝよ演續ゝゝ誰ゝゝ做顰のあゝゝゝを感心ゝ。其中ゝのんゝゝ鳥と云詞必關ゝゝのんゝゝ如ゝゝゝ神佛ゝ指ゝ

興安児語之之日輪をのんゝと称へ日出鳥の支ゝゝ此明鴉ハ辻褄を合ゝ級ゝゝ料簡ゝんゝゝゝ長譚のゝゝゝ入ゝゝ無心所着と云ゝゝゝゝゝ

ゝゝ筋もあゝゝゝゝ見功者の意見慚ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ百申ゝゝ理屈の詰ゝゝ續物の落語より評好ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

春日屋養子
時治郎

新造闇香
匂咲
家隙
傾
吉



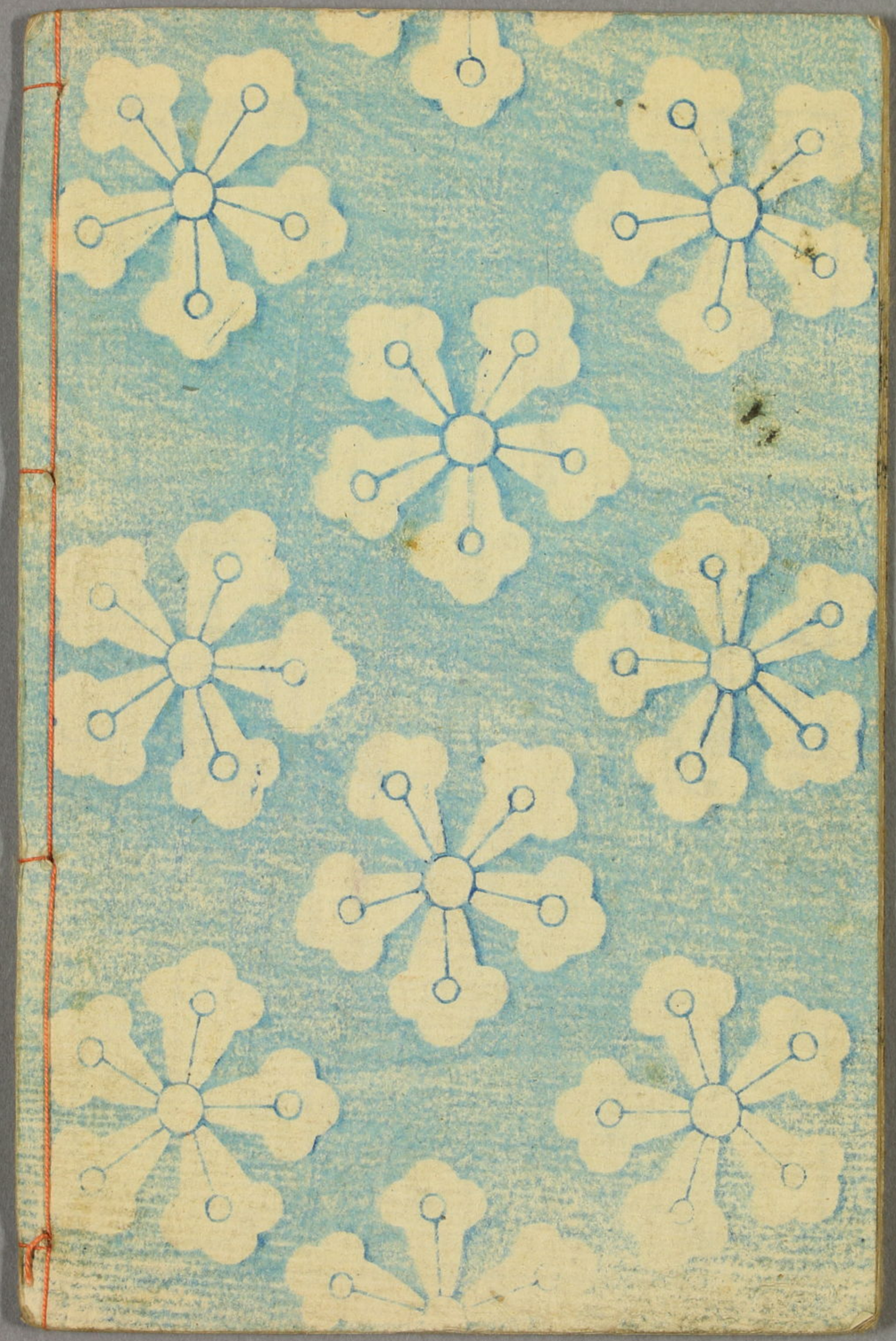
時
峯

時
次郎
太郎

時

本家
實母散
えんぜんさんとんちのきちこ切の効業
中橋南傳馬町一日東ゑ
一藍堂等制製

厚化粧萬年嶋田　五篇　爲永春水作
丸鶴亭　梅蝶樓國貞画

柳蔭月朝妻　物篇　追々出板　山と亭有人作
午春　初ゑ　梅蝶樓國貞画

這の一樣が名うの人朝妻船の唱歌
さくらう　盛岡の性　うるを賢澤子
特生涯　賢き英智の
祈願所真海　身を亡かの
作合初編　御島